

日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第92回廃止措置分科会（R3SC） 議事録

1. 日時 2024年2月27日（火） 9:30-11:10
2. 場所：Web会議 （Webex）
3. 出席者：岡本主査、目黒副主査、杉山幹事、青井、石原、工藤、黒川、小山、
佐藤、鈴木、高橋、田村、鳥居、仲田、中村、西村、平井、見上、山本
委任状提出：田中（敬称略）
4. 配布資料
 - R3SC-93-1 人事案件
 - R3SC-93-2 第92回廃止措置分科会議事録（案）
 - R3SC-93-3 「発電用原子炉施設の廃止措置計画策定基準：2022」並びに「原子力施設の廃止計画の基本安全基準：2022」及び「発電用原子炉施設の廃止措置計画における安全評価基準：2022」に係る用語辞典への登録について（案）
 - R3SC-93-4 耐震技術レポート原子力安全検討会意見募集結果&対応方針案
 - R3SC-93-5 耐震技術レポートの概要
 - R3SC-93-6-1 耐震技術レポート本文（案）
 - R3SC-93-6-2 耐震技術レポート付録A（案）
 - R3SC-93-6-3 耐震技術レポート付録B（案）
 - R3SC-93-6-4 耐震技術レポート付録C（案）
 - R3SC-93-6-5 耐震技術レポート付録D（案）
 - R3SC-93-6-6 耐震技術レポート付録E（案）
 - R3SC-93-6-7 耐震技術レポート付録F（案）
 - R3SC-93-6-8 耐震技術レポート付録G（案）
 - R3SC-93-6-9 耐震技術レポート付録H（案）
 - R3SC-93-6-10 耐震技術レポート付録I（案）
 - R3SC-93-6-11 耐震技術レポート付録J（案）
5. 議事
 - (1) 一般事項
 - ① 19名/20名の出席により分科会成立を確認した。なお、1名の欠席者から委任を得ている
 - ② 人事案件 今回はなし
 - ③ 次回分科会は、4月5日 9:30～（オンライン開催）
 - ④ 所属等変更があれば、杉山幹事宛て連絡すること。

(2) 前回議事録確認 [R3SC-93-2]

特にコメントなし

(3) 廃止措置3標準（基本安全基準、計画策定基準、安全評価基準）の「用語の定義」について [R3SC-93-3]

- 杉山幹事から、廃止措置3標準（基本安全基準、計画策定基準、安全評価基準）において定義されている用語について、原子力学会の用語辞典に記載するものはないと検討結果であると報告があった。
- 投票の結果、用語辞典に登録するものはなしとのことで決議された。

(4) 廃止措置耐震安全技術レポート本文案の原子力安全検討会コメント回答方針 [R3SC-93-6-4]

- 担当委員からR3SC-93-4に沿って、原子力安全検討会の意見募集の結果の報告があった。
 - 1) 3名の委員から14件のコメントがあった。
 - 2) 公衆被ばく以外のリスクの取り扱い、リスクの考え方（発生頻度考慮）、不確定性の考慮、グレーデッドアプローチ適用の説明の充実化などに関するご意見があった。
 - 3) 技術レポート作成における基本方針に係るところが多く「はじめに」または、解説において補足的に説明する方針とする。
- 事故時のリスクについては運転中の軽水炉の事故の考え方に基づいたコメントになっている。例えば、不確かさを大きく見積もったとしても廃止措置ではインベントリが小さく影響が大きくなり、作業安全のリスクのほうが大きくなる。作業安全のリスクは別途規制がある旨等を記載し、原子力施設の廃止措置特有である放射線安全で判断する旨の記載を行うこと。（岡本主査）
- 不確かさについては、線量が小さいことから不確かさを考慮しても決定論的手法でよいことを解説に記載すること。（岡本主査）
- フリーケンシー・コンシーケンスに基づく評価／対策検討の必要性を示すべきで、廃止措置に対しては規制の仕方を変える必要がある。それを解説で説明するのでスペースを空けておいてほしい。（岡本主査）
- 上位標準で規定していることを繰り返す必要はない。引用する説明とすることにより。（岡本主査）

(5) 廃止措置耐震安全技術レポート概要説明 [R3SC-93-6-5]

- 担当委員からR3SC-93-5に沿って廃止措置耐震安全技術レポート整備の状況説明がなされた。
- 担当委員から、本文の「はじめに」や「おわりに」の記載見直しが必要なので、書面投票は次回とさせて頂きたいと意見があった。これに対して、岡本主査から、本文の見直しを2Wで行い結果をメール等で配布して1か月の書面投票とすれば間に合うのではないかとと思うが、内容的に慎重を期したほうがよい重要な文書でもあるので、次回分科会で投票とすることが提案された。また、常時参加者を含め、意見募集を3/15期限で実施し、本文の「はじめに」や「おわりに」は見直しされるので、それを踏まえコメントをお願いすることも岡本主査から伝えられた。

- 今後のスケジュールは次のとおり。
 - 1) 3月15日(金) 期限で本文／付録全体の分科会意見募集
 - 2) 4月5日(金)am 第94回廃止措置分科会(分科会意見募集コメント回答、原子力安全委員会コメント対応版の審議、書面投票)
 - 3) 5月8日(水) 第45回原子力安全検討会コメント回答
 - 4) 5月10日(金) 第62回基盤応用・廃炉技術専門部会コメント回答及び付録説明／審議
 - 専門部会の担当委員から、必要があれば臨時で専門部会を開催いただくことも可能と頂いた。
- (6) 廃止措置耐震安全技術レポート 付録構成を変更した全体案 [R3SC-93-6-1～11]
- 担当委員から全体案について、説明がなされた。
 - 付録Gの概略評価と付録Hの詳細評価とのつながりで、付録Jの建屋の評価が概略評価を使うのか詳細評価を使うのが分かりにくい。付録Jの表題を工夫するか、本文の解説で説明してはどうかと委員からコメントがあった。これに対し、本技術レポート作成担当の委員から、建屋の評価は当該建屋内に存在する機器配管類が有する放射性物質の合計の放射エネルギーを対象としているため、概略評価の手法を使って評価をしている。建屋の概略評価と付録G, Hとのつながりがわかりやすくなるよう解説に追記するとされた。
 - 岡本主査から、付録Dの図D. 1について、安全重要度ランクB, Cの詳細評価についてもランクAの詳細評価と同じ項目の検討をするのであれば、修正が必要ではないかとコメントがなされた。これに対し、古い付録Eで安全重要度ランクAを対象に評価するフローのままとなっているので担当委員から修正すると伝えられた。
 - 岡本主査から、付録Eの事象検討表(表E. 1)について、作業期間の“長”、“中”、“短”についてスケールはそれぞれ年／月／日レベルと考えてよいか。日レベルであれば、地震以外も含む外部事象の発生頻度との比較で評価対象外にできるのではないかとコメントがなされた。これに対し、現時点では工事が詳細に計画されているわけではないため、あくまでも評価段階でのイメージのレベルで記載している。よって年／月／日を記載しなかった。再確認をしたうえで時間スケールを記載することとすると担当委員から伝えられた。
 - 岡本主査から、付録Gの炉内構造物の概略評価結果について、“A [⇒B] ”と記載しているが“B [A] ”とした方がよいとコメントがなされた。これに対し、まずは、工法を限定しない本文 表3(1)の飛散パラメータを用いて潜在的危険性を評価／把握し、次に工法を限定した表3(2)の飛散パラメータを用いて評価を行って実現性を確認する手順を取るため“A [⇒B] ”の表現とした。結果を重視し、“B [A] ”に修正すると担当委員から伝えられた。

以上